



2026(令和8)年9月10日 編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地 Tel 024-535-3218 <https://www.library.fcs.ed.jp/>

企画展示 「県政150周年展示 資料に見る福島県の姿」

期間:8月7日(金)から9月30日(水) 場所:企画展示コーナー

1876(明治9)年に旧福島県・磐前県・若松県の三県が合併してから150周年を迎える本県が、どのように姿を変えたかを当館所蔵資料を通じて紹介しています。

企画展示

福島県歴史資料館移動展

「阿武隈川流域の歴史と文化」

期間:10月2日(金)から11月4日(水) 場所:企画展示コーナー

江戸・明治時代を中心に、阿武隈川およびその支流域に関する史料を紹介します。

絵図にみる阿武隈川の姿や、上流域での通船事業、漁猟・流し木といった川の利用などを展示し、流域の歴史と文化を振り返ります。

公開図書室 展示のご案内

● 貴重資料展 福島の養蚕

*今年県政150周年を迎えた福島県は、信達地方をはじめとして古くから養蚕が盛んで、明治期には輸出用の生糸生産を担いました。長くわが県を支えた産業である養蚕に関する資料3点を展示します。

9月16日(水)まで センターホール付近

● "届ける"のこれから

*現代社会の重要なインフラのひとつである"物流"について特集された雑誌を紹介します。

11月4日(水)まで 調査相談カウンター横

こどものへや 展示のご案内

● かがくとちしきの絵本

*草花や昆虫の観察、身の回りのものを使った実験、動物の不思議などを扱った、科学と知識の絵本を展示します。

11月4日(水)まで こどものへや絵本コーナー

● 行ってみたい海の向こう 世界のくらしを見てみよう

*さまざまな国のくらしや地理が分かる本を展示します。

11月4日(水)まで こどものへや入り口横

9月1日から

新サービス 図書館利用アプリを開始しました

新規利用登録や更新手続きがスマートフォンからも行えるほか、デジタル利用カードの利用や、返却期限をプッシュ通知で受け取ることもできます。詳しくは、当館ウェブサイト「図書館利用アプリ」をご覧ください。

■ アプリによる利用登録や更新手続きができる方

福島県内在住(マイナンバーカードに登録された住所が福島県内)の方



図書館利用アプリ

新着案内

各分野の担当者が選んだ、おすすめの新着資料を紹介します。

人文・社会・自然

『名画のクラシック 拡大でみる 60 の音楽物語事典』
加藤浩子/著 創元社 2026.4 762.3/加 264

西洋絵画に描かれた音楽について紹介している本書。有名な作曲家の肖像画、楽器を演奏する人の絵画、コンサートの様子を描いた絵画など、さまざまな絵画に描かれた音楽の意味や歴史的・文化的背景を解説しています。名画から生まれた音楽についての章もあり、絵画と音楽の関係の深さがわかります。絵画から音楽へ、読者の興味を広げる本となっています。

『ようこそ韓国・朝鮮世界へ シリーズ地域研究のすめ 5』長澤裕子/編 昭和堂 302.21/ナ1265/

日韓国交正常化 60 年を記念して朝鮮半島に関する専門家により執筆された、初学者向けの韓国・北朝鮮について知ることができの一冊です。本書の特徴的な点として、日韓・日朝関係のほか政治・外交・経済などのテーマを韓国・北朝鮮について同じ・連続した章で扱い、同時に学べる構成となっています。近年交流が盛んな韓国、近くて遠い関係の北朝鮮について、改めて学ぶことができる一冊です。

『大地球史 生命が地球をつくった46億年の新しい進化史』フェリス・ジャブル/著 ヤナガワ智予/訳
日経ナショナルジオグラフィック
2026.5 450/シF265

地球を形作る要因は、地球に存在する生命と「共に進化する」ことであるといえます。いま人類が直面する環境問題や気候危機も、あらゆる生命と共鳴しながら進化を続ける地球の姿なのでしょうか。科学ジャーナリストの壮大な視点で描いた地球史には、新しい物語を感じます。

児童・児童図書研究

『子どもを描く 林明子の世界』福音館書店編集部/編
福音館書店 2026.4 J726.6/ハ

『こんとあき』や『おつきさまこんばんは』などの絵本で知られる林明子さんの仕事について、絵本制作の舞台裏や、ご本人のことは、編集者ら周囲の方々の寄稿などをまとめた本です。絵本に描かれたそのままの姿でモデルをする姪御さんの写真や、林さん作のぬいぐるみのこんなども掲載されています。

初期の代表作『はじめてのおつかい』の絵を引き受けるにあたり、林さんは「現実の世界よりも、もっと本物」だと子どもに唸ってもらわなければならない、と考えて取材を重ねたそうです。この姿勢はもちろん他の本でも発揮されていて、作品の世界を作るためにどんな仕事をされたのかがたくさん語られています。読後は林さんの絵本や児童文学作品を読み返したくなる、ファン必見の一冊です。

雑誌・新聞

9月は災害への備えや知識を深める「防災月間」です。今回は防災に関する記事が掲載された雑誌を紹介します。

『季刊 消防防災の科学』消防防災科学センター
Z317.79/S2 2026.8 (No.165, 2026.夏季号)

特集「東日本大震災から15年、熊本地震から10年」

『ジチタイワークス』ジチタイワークス Z318/J22
2026.8 (Vol.45, 2026 年 8 月)

特集「防災“流れ”を止めない災害対応。」

『PC-Webzine』PC-Webzine 編集局 Z548/P1 2026.7
(Vol.414, Aug 2026)

特集「自然災害とサイバー攻撃への複合災害レジリエンス確保」

『月刊地球』海洋出版 Z450.5/C2 2026.7
(Vol.48, No.7, 通巻 561 号 2026.7 月)

総特集「火山防災の基礎と応用Ⅲー火山災害の軽減に向けてー」

地域

『いのちが会える皿 福島の土と人とともに生きる』
萩春朋/著 鈴木光一/著 森禎行/編 福土舎 2026.5
L612.1/H4/1

南相馬市小高区に設立された出版社「福土舎」の、発行第一弾となる書籍。共に福島県内を拠点に活躍する料理人・萩春朋と農家・鈴木光一によるエッセイ集。二人が震災以後どのように食や土地と向き合ってきたのかが、それぞれの仕事の記録として綴られています。淡々として静かな語り口ながら、一つの皿の裏側にあるストーリーについて強い印象を与えてくれる本です。

『ムシできない虫たち 暮らしの中の人と虫』
山口弘/執筆・編集 福島県立博物館 2026.4
L069/F3/114

福島県は信達地方を中心にカイコから絹糸を生産する「養蚕」が盛んで、「虫」は人々の暮らしや産業に欠かせない存在でした。

福島県立博物館で開催された春の企画展の展示図録である本書には、双葉町歴史民俗資料館や南相馬市博物館の昆虫標本コレクションのほか、県内の養蚕資料や「虫送り」などの民俗行事に関する資料が豊富に紹介されています。地域に根ざした人と虫の多様な関わりを、分かりやすく学べる一冊です。